

No.とプログラム名	No.46 スポーツチームの色々なお仕事を学んでみよう！
実施日・回数	8月6日（火）、8月7日（水） 計5回実施
会場	横浜市役所1階市民協働スペースAB
参加児童数	125人
企業・団体等名	横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課 協力：横浜F・マリノス、横浜エクセレンス、横浜FC、 横浜キヤノンイーグルス、横浜ビー・コルセアーズ
参加の目的 (150文字程度)	子どもたちが意識しやすい選手の他にも、選手・チームを支えるスタッフの方々がいることや、そのお仕事を学び、将来の選択肢の一つとして考えてもらうとともに、スポーツチームのことをもっと好きになってもらう。

■ プログラム内容

スポーツチームの選手、スタッフの皆様を講師に迎え、チームでは色々な役割の人が働いていて、どのようなお仕事をされているのかをお話いただきました。

ワークショップでは、子どもたちにグッズ製作や広報のスタッフになってもらい、オリジナルグッズやPRポスター、キャッチコピーを作ったり考えたりしてもらいました。



横浜エクセレンスのプログラム
チームPRポスターを作成



横浜FCのプログラム
選手による「夢」についての講話

■ 参加児童の様子や意見、感想

初対面同士で緊張した様子でしたが、ワークショップが始まると、楽しそうに自由に意見を交わし、それぞれ工夫を凝らして取り組んでくれました。

絵を描いたり、文章を考えたりが、もしかしたら得意でない子どもたちもいたかもしれませんが、講師の皆様のアドバイスを聞きながら、一生懸命に取り組む様子が印象的でした。

振り返りで感想を聞いた際には、「スポーツチームに色々な人が働いていることを知ることができました」「次にチームの試合に行く時は、働いているスタッフさんにも注目してみたいです」「みんなで一緒にものをつくる経験がはじめてで楽しかったです」といった話をしてくれました。



横浜キャノンイーグルスのプログラム
オリジナルトートバッグを作成

■ 講師を務めていただいたスポーツチームの皆様の気付きや感想

・「スポーツの話」と「スポーツチームの話」の違いが理解しづらい年代の子どもたちには、「スポーツの話」を多めにした方が『楽しさ』はあったと思いますが、「スポーツチームの話」を通じて多くの『学び、気づき』を伝える機会になったと感じています。最後に今後の生活で意識してほしいことを伝えた際には、自然と多くの子どもたちから大きな返事があり、その大切さを理解してくれているのだなとうれしい気持ちになりました。（横浜F・マリノス）

・聞いた話からキャッチコピーを考えるという少し難しいワークでしたが、積極的に発言してくれる子や、静かにもくもくと考えてくれる子と、取り組み方に違いはあっても、皆さん積極的に一生懸命取り組んでくれたのが印象的でした。弊社クラブが横浜にあるクラブとしてどうありたいのか、そのためにどのような活動を行っているのかを知っていただく機会はありません、想像以上に興味をもっていただいたので、とてもいい機会でした。（横浜ビー・コルセアーズ）



横浜F・マリノスのプログラム
オリジナルグッズを考案



横浜ビー・コルセアーズのプログラム
チームのキャッチコピーを考案